

zhú lǐ guǎn wáng wéi  
竹里馆 王维

dú zuò yōu huáng lǐ  
独坐幽篁里

tán qín fù cháng xiào  
弹琴复长啸

shēn lín rén bù zhī  
深林人不知

míng yuè lái xiāng zhào  
明月来相照

yuàn qíng lǐ bái  
怨情 李白

měi rén juǎn zhū lián  
美人卷珠帘

shēn zuò pín é méi  
深坐颦蛾眉

dàn jiàn lèi hén shī  
但见泪痕湿

bù zhī xīn hèn shuí  
不知心恨谁

ひと ゆうこう うち さ  
独り幽篁の裏に坐し

だんきん ま ちょうしょう  
弹琴復た長 嘯

しんりん ひと し  
深林 人知らず

めいげつ き あいて  
明月来たりて相照らす

びじん しゆれん ま  
美人珠簾を捲き

ふか さ が び ひそ  
深く坐して蛾眉を颦む

た み るいこん うるお  
但だ見る涙痕の湿うを

し こころ たれ うら  
知らず心に誰をか恨む

jìng yè sī lǐ bái  
静夜思 李白

chuángqián míng yuè guāng  
床前明月光

yí shì dì shàng shuāng  
疑是地上霜

jǔ tóu wàng míng yuè  
举头望明月

dī tóu sī gù xiāng  
低头思故乡

dú zuò jìng tíng shān lǐ bái  
独坐敬亭山 李白

zhòng niǎo gāo fēi jìn  
众鸟高飞尽

gū yún dú qù xián  
孤云独去闲

xiāng kàn liǎng bú yàn  
相看两不厌

zhǐ yǒu jìng tíng shān  
只有敬亭山

しょうぜんげつこうあき  
床前月光明らかなり

うたが うらくはこれ ちじょう しも  
疑うらくは是れ地上の霜かと

こうべ あ めいげつ のぞ  
頭を挙げて明月を望み

こうべ た こきょう おも  
頭を低れて故郷を思う

しゅうちやうたか と つ  
衆鳥高く飛んで尽き

こうんひと き のど  
孤雲独り去って閑かなり

あいみ ふた いと  
相看着両つながら厭わず

た けいていざん あ  
只だ敬亭山有るのみ

jiāng xuě liǔ zōng yuán  
江 雪 柳 宗 元

dēng yōu zhōu tái chén zǐ áng  
登 幽 州 台 陈 子 昂

qiān shān niǎo fēi jué  
千 山 鸟 飞 绝

qián bú jiàn gǔ rén  
前 不 见 古 人

wàn jìng rén zōng miè  
万 径 人 踪 灭

hòu bú jiàn lái zhě  
后 不 见 来 者

gū zhōu suō lì wēng  
孤 舟 蓑 笠 翁

sī tiān dì yōu yōu  
思 天 地 悠 悠

dú diào hán jiāng xuě  
独 钓 寒 江 雪

dú chuàng rán tì xià  
独 怆 然 涕 下

せんざんとりと た  
千山鳥飛ぶこと絶え

まえ こじん み  
前に古人を見ず

ばんけいじんしょうめつ  
万径人蹤滅す

のち らいしや み  
後に来者を見ず

こしゅう さりゅう おう  
孤舟蓑笠の翁

てんち ゆうゆう おも  
天地の悠悠たるを思うて

ひと つ かんこう ゆき  
独り釣る寒江の雪に

ひと そうぜん なんだくだ  
独り愴然として涕下る

jiāng nán chūn dù mù  
江 南 春 杜 牧

kè zhōng xíng lì bái  
客 中 行 李 白

qiān lǐ yīng tí lǜ yìng hóng  
千 里 莺 啼 绿 映 红

lán líng měi jiǔ yù jīn xiāng  
兰 陵 美 酒 郁 金 香

shuǐ cūn shān guō jiǔ qí fēng  
水 村 山 郭 酒 旗 风

yù wǎn chéng lái hǔ pò guāng  
玉 碗 盛 来 琥 珀 光

nán cháo sì bǎi bā shí sì  
南 朝 四 百 八 十 寺

dàn shǐ zhǔ rén néng zuì kè  
但 使 主 人 能 醉 客

duō shǎo lóu tái yān yǔ zhōng  
多 少 楼 台 烟 雨 中

bù zhī hé chù shì tā xiāng  
不 知 何 处 是 他 乡

せんりりうぐいすな みどりくれない えい  
千里鶯啼きて緑紅に映ず

らんりゅう びしゅうつこんこう  
蘭陵の美酒鬱金香

すいそんさんかくしゆき かぜ  
水村山郭酒旗の風

ぎょくわん も きた こはく ひかり  
玉碗盛り来る琥珀の光

なんちょうよんひやくはっしんじ  
南朝四百八十寺

た しゅじん よ かく よ  
但だ主人をして能く客を酔わしめば

たしょう ろうだいえんう うち  
多少の楼台煙雨の中

し いず ところ こ たきょう  
知らず何れの処か是れ他郷なるを

dēng guān què lóu wáng zhī huàn  
登 鶴 鵲 樓 王 之 渙

huánghèlóusòngmènghàoránzhīguǎnglíng lǐbái  
黃 鶴 樓 送 孟 浩 然 之 廣 陵 李 白

bái rì yī shān jìn  
白 日 依 山 盡

gù rén xī cí huáng hè lóu  
故 人 西 辭 黃 鶴 樓

huáng hé rù hǎi liú  
黃 河 入 海 流

yān huā sān yuè xià yáng zhōu  
煙 花 三 月 下 揚 州

yù qióng qiān lǐ mù  
欲 窮 千 里 目

gū fān yuǎn yǐng bì kōng jìn  
孤 帆 遠 影 碧 空 盡

gèng shàng yì céng lóu  
更 上 一 層 樓

wéi jiàn cháng jiāng tiān jì liú  
唯 見 長 江 天 際 流

はくじつやま よ つ  
白 日 山 に 依 り て 尽 き

こじんにし こうかくろう じ  
故 人 西 の か た 黃 鶴 樓 を 辞 し

こうがうみ い なが  
黃 河 海 に 入 り て 流 る

えんかさんがつようしゅう くだ  
煙 花 三 月 揚 州 に 下 る

せんり め きわ ほつ  
千 里 の 目 を 窮 め ん と 欲 し て

こはん えんえいへきくう つ  
孤 帆 の 遠 影 碧 空 に 尽 き

さら のぼ いっそう ろう  
更 に 登 る 一 層 の 樓

ただ み ちょうこう てんさい なが  
唯 だ 見 る 長 江 の 天 際 に 流 る る を

shān zhōng dá sú rén lǐ bái  
山 中 答 俗 人 李 白

sòng yuán èr shǐ ān xī wáng wéi  
送 元 二 使 安 西 王 維

wèn yú hé yì qī bì shān  
問 余 何 意 栖 碧 山

wèi chéng zhāo yǔ yì qīng chén  
渭 城 朝 雨 浥 輕 塵

xiào ér bù dá xīn zì xián  
笑 而 不 答 心 自 閑

kè shè qīng qīng liǔ sè xīn  
客 舍 青 青 柳 色 新

táo huā liú shuǐ yǎo rán qù  
桃 花 流 水 窅 然 去

quàn jūn gèng jìn yì bēi jiǔ  
勸 君 更 盡 一 杯 酒

bié yǒu tiān dì fēi rén jiān  
別 有 天 地 非 人 間

xī chū yáng guān wú gù rén  
西 出 陽 關 無 故 人

われ と なん こころ へきざん す  
余 に 問 う 何 の 意 に て か 碧 山 に 住 む と

いじょう ちょうう けいじん うるお  
渭 城 の 朝 雨 は 輕 塵 を 浥 し

わろ こた こころ おの しず  
笑 う て 答 え ず 心 は 自 ず と 閑 か な り

かくしやせいせいりゅうしよくあら  
客 舍 青 々 柳 色 新 た な り

とう かりゅうすいようぜん さ  
桃 花 流 水 窅 然 と し て 去 り

きみ すす さら つ いっばい さけ  
君 に 勸 む 更 に 尽 く せ 一 杯 の 酒

べつ てんち ひと よ あらざ あ  
別 に 天 地 の 人 の 間 に は 非 る も の 有 り

にし ようかん いづ こじん な  
西 の か た 陽 關 を 出 れ ば 故 人 無 か ら ん

é méi shān yuè gē      lǐ bái  
峨眉山月歌      李白

é méi shān yuè bàn lún qiū  
峨眉山月半轮秋

yǐng rù píng qiāng jiāng shuǐ liú  
影入平羌江水流

yè fā qīng xī xiàng sān xiá  
夜发清溪向三峡

sī jūn bú jiàn xià yú zhōu  
思君不见下渝州

が び さんげつはんりん      あき  
峨眉山月半輪の秋  
かげ      へいきょうこうすい      い      なが  
影は平羌江水流  
よるせいけい      はつ      さんきょう      む  
夜清溪を発して三峡に向こう  
きみ      おも      み      ゆしゅう      くだ  
君を思えども見えず渝州に下る

fù chóu      dù fǔ  
复愁      杜甫

wàn guó shàng róng mǎ  
万国尚戎马

gù yuán jīn ruò hé  
故园今若何

xī guī xiāng shí shǎo  
昔归相识少

zǎo yǐ zhàn chǎng duō  
早已战场多

ばんこくなお      じゅうば  
万国尚お戎馬  
こえんいまいかん  
故園今若何  
むかしがえ      そうしきま  
昔帰りしとき相識少れに  
はや      すで      せんじょうおお  
早く己に戦場多かりき

qiū pǔ gē      lǐ bái  
秋浦歌      李白

bái fà sān qiān zhàng  
白发三千丈

yuán chóu sì gè cháng  
缘愁似个长

bù zhī míng jìng lǐ  
不知明镜里

hé chù dé qiū shuāng  
何处得秋霜

はくはつさんぜんじょう  
白髪三千条  
うれ      よ      か      ごと      なが  
愁いに縁って箇の似く長し  
し      めいきょう      うち  
知らず明鏡の裏  
いず      ところ      しゅうそう      え  
何れの処よりか秋霜を得たる

jué jù      dù fǔ  
绝句      杜甫

jiāng bì niǎo yú bái  
江碧鸟逾白

shān qīng huā yù rán  
山青花欲燃

jīn chūn kàn yòu guò  
今春看又过

hé rì shì guī nián  
何日是归年

こう      みどり      とりいよ      しろ  
江は碧にして鳥逾いよ白く  
やま      あお      はなも      ほつ  
山は青くして花然えんと欲す  
こんしゅん      ま      ま      す  
今春看のあたりに又た過ぐ  
いず      ひ      こ      きねん  
何れの日か是れ帰年

chūn xiǎo mèng hào rán  
春 晓 孟 浩 然

chūn mián bù jué xiǎo  
春 眠 不 觉 晓

chù chù wén tíniǎo  
处 处 闻 啼 鸟

yè lái fēng yǔ shēng  
夜 来 风 雨 声

huā luò zhī duō shǎo  
花 落 知 多 少

しゅんみんあかつき おぼ  
春 眠 晓 を 覚 えず

しょしょていちよう き  
処 々 啼 鳥 を 聞 く

やらいふうう こえ  
夜 来 風 雨 の 声

はな お したしやう  
花 落 つ る こ と 知 る 多 少

zhōngshānjíshì wáng ān shí  
钟 山 即 事 王 安 石

jiàn shuǐ wú shēng rào zhú liú  
涧 水 无 声 绕 竹 流

zhú xī huā cǎonòng chūn róu  
竹 西 花 草 弄 春 柔

máo yán xiāng duì zuò zhōng rì  
茅 檐 相 对 坐 终 日

yì niǎo bù tí shān gèng yōu  
一 鸟 不 啼 山 更 幽

かんすいこえ な たけ めぐ なが  
涧 水 声 无 く 竹 を 遶 っ て 流 る

ちくせい か そうしゅんじゅう ろう  
竹 西 の 花 草 春 柔 を 弄 す

ぼうえんあいたい ざ しゅうじつ  
茅 檐 相 对 して 坐 す る こ と 终 日

いっちょう な やまさら ゆう  
一 鸟 啼 か ず 山 更 に 幽 な り

chū sài cóngjūnxíng wángchānglíng  
出 塞 从 军 行 王 昌 龄

qín shí míng yuè hàn shí guān  
秦 时 明 月 汉 时 关

wàn lǐ cháng zhēng rén wèi huán  
万 里 长 征 人 未 还

dàn shǐ lóng chéng fēi jiāng zài  
但 使 龙 城 飞 将 在

bú jiào hú mǎ dù yīn shān  
不 教 胡 马 度 阴 山

しんじ めいげつかんじ かん  
秦 時 の 明 月 漢 時 の 関

ばんり ちやうせい ひといま かえ  
万 里 長 征 して 人 未 だ 還 ら ず

た りゅうじやう ひしやう あ  
但 だ 龍 城 の 飛 将 を して 在 ら し め ば

こば を して いんざん わた  
胡 馬 を して 陰 山 を 度 ら し め ず

chūn xíng jì xìng lǐ huá  
春 行 寄 兴 李 华

yí yáng chéng xià cǎo qī qī  
宜 阳 城 下 草 萋 萋

jiàn shuǐ dōng liú fù xiàng xī  
涧 水 东 流 复 向 西

fāng shù wú rén huā zì luò  
芳 树 无 人 花 自 落

chūn shān yí lù niǎo kōng tí  
春 山 一 路 鸟 空 啼

ぎやうじやう か くさせいせい  
宜 陽 城 下 草 萋 萋 たり

かんすいとうりゅう ま にし むこ  
涧 水 東 流 して 復 た 西 に 向 う

ほうじゅひと な はなのおずか お  
芳 樹 人 无 く 花 自 ら 落 ち

しゅんざんいちろ とりむな な  
春 山 一 路 鳥 空 しく 啼 く

chú yè zuò gāo shì  
除夜作 高适

lǚ guǎn hán dēng dú bù mián  
旅馆寒灯独不眠

kè xīn hé shì zhuǎn qī rán  
客心何事转凄然

gù xiāng jīn yè sī qiān lǐ  
故乡今夜思千里

shuāng bìn míng zhāo yòu yì nián  
霜鬓明朝又一年

りょかん かんとうひと ねむ  
旅館の寒灯独り眠らず

かくしんなにごと うた せいぜん  
客心何事ぞ 転た凄然

こきょうこん や せんり おも  
故郷今夜千里を思う

そうびんみょうちょう いちねん  
霜鬓明朝また一年

sì shí gē gù kǎi zhī  
四时歌 顾恺之

chūn shuǐ mǎn sì zé  
春水满四泽

xià yún duō qí fēng  
夏云多奇峰

qiū yuè yáng míng huī  
秋月扬明辉

dōng líng xiù gū sōng  
冬岭秀孤松

しゅんすい したく み  
春水四沢に満ち

か うん き ほうおほ  
夏雲奇峰多し

しゅうげつめいき あ  
秋月明輝を揚げ

とうれい こしやうひい  
冬嶺孤松秀ず

liáng zhōu cí wáng hàn  
凉州词 王翰

pú táo měi jiǔ yè guāng bēi  
葡萄美酒夜光杯

yù yǐn pí pá mǎ shàng cuī  
欲饮琵琶马上催

zuì wò shā chǎng jūn mò xiào  
醉卧沙场君莫笑

gǔ lái zhēng zhàn jǐ rén huí  
古来征战几人回

ぶどう びしゅ やこう はい  
葡萄の美酒夜光の杯

の ほつ び わ ぼじょう もよお  
飲まんと欲すれば琵琶馬上に催す

よ さじょう ふ きみわら  
酔うて沙上に臥すとも君笑うことなかれ

こらいせいせん いくにん かえ  
古来征战 幾人が回る

zǎo fā bái dì chéng lǐ bái  
早发白帝城 李白

zhāocíbáidìcǎiyúnjiān  
朝辞白帝彩云间

qiānlǐjiānglíngyírihuán  
千里江陵一日还

liǎngànyuánshēngtíbúzhù  
两岸猿声啼不住

qīngzhōuyǐguòwànchóngshān  
轻舟已过万重山

あした じ はくていさいうん かん  
朝に辞す白帝彩雲の間

せんり こうりやういちじつ かえ  
千里の江陵一日にして還る

りやうがん えんせい な や  
兩岸の猿声啼いて住まざるに

けいしゅうすで す ばんちやう やま  
軽舟己に過ぐ万重の山

féng rù jīng shǐ cén chēn  
逢入京使岑参

gù yuán dōng wàng lù màn màn  
故园东望路漫漫

shuāng xiù lóng zhōng lèi bù gān  
双袖龙钟泪不干

mǎ shàng xiāng féng wú zhǐ bǐ  
马上相逢无纸笔

píng jūn chuán yǔ bào píng ān  
凭君传语报平安

こうえんとうぼう みちまんまん  
故園東望すれば路漫々たり  
そうしゅうりょうしょう なみだかわ  
双袖竜鐘として涙乾かず  
ばじょうあいお しひつな  
馬上相逢うて紙筆無し  
きみよ でんご へいあん ほう  
君に憑つて伝語し平安を報ぜん

jiǔyuèjiǔrìyìshāndōngxiōngdì wángwéi  
九月九日忆山东兄弟王维

dú zài yì xiāng wéi yì kè  
独在异乡为异客

měi féng jiā jié bèi sī qīn  
每逢佳节倍思亲

yáo zhīxiōng dì dēng gāo chù  
遥知兄弟登高处

biàn chā zhū yú shǎo yì rén  
遍插茱萸少一人

ひと いきょう いかく な  
独り異郷にあつて異客と為り  
かせつ あ ごと ます しん おも  
佳節に逢う毎に倍ます親を思う  
はる し けいていたか のぼ ところ  
遥かに知る兄弟高きに登る処  
あま しゅゆ さ いちにん か  
遍ねく茱萸を挿して一人を少かんことを

fúrónglósòngxīnjiàn wángchānglíng  
芙蓉楼送辛渐王昌龄

hán yǔ lián jiāng yè rù wú  
寒雨连江夜入吴

píng míng sòng kè chǔ shān gū  
平明送客楚山孤

luò yáng qīn yǒu rú xiāng wèn  
洛阳亲友如相问

yí piàn bīng xīn zài yù hú  
一片冰心在玉壶

かんうこう つら よるご い  
寒雨江に連なって夜呉に入る  
へいめいかく おく そざんこ  
平明客を送れば楚山孤なり  
らくよう しんゆう も あいと  
洛陽の親友如し相問わば  
いっぺん ひょうしんぎよく こ あ  
一片の氷心玉壺に在り

qiū fēng yǐn liú yǔ xī  
秋风引刘禹锡

hé chù qiū fēng zhì  
何处秋风至

xiāo xiāo sòng yàn qún  
萧萧送雁群

zhāo lái rù tíng shù  
朝来入庭树

gū kè zuì xiān wén  
孤客最先闻

いず ところ しゅうふういた  
何れの処よりか秋風至る  
しょうしょう がんぐん おく  
蕭蕭として雁群を送る  
ちょうらいていじゆ い  
朝来庭樹に入り  
こかくもつと さき き  
孤客最も先に聞く

ǒu chéng zhū xī  
偶 成 朱 熹

shào nián yì lǎo xué nán chéng  
少 年 易 老 学 难 成

yí cùn guāng yīn bù kě qīng  
一 寸 光 阴 不 可 轻

wèi jué chí táng chūn cǎo mèng  
未 觉 池 塘 春 草 梦

jiē qián wú yè yǐ qiū shēng  
阶 前 梧 叶 已 秋 声

しょうねん お やす がく な がた  
少 年 老 易 学 成 難 じ  
いっすん こういんかる  
一 寸 の 光 陰 軽 ん ず べ か ら ず  
いま さ ちとうしゅんそう ゆめ  
未 だ 覚 め ず 池 塘 春 草 の 夢  
かいぜん ごようすで しゅうせい  
階 前 の 梧 葉 已 に 秋 声

fēng qiáo yè bó zhāng jì  
枫 桥 夜 泊 张 继

yuè luò wū tí shuāng mǎn tiān  
月 落 乌 啼 霜 满 天

jiāng fēng yú huǒ duì chóu mián  
江 枫 渔 火 对 愁 眠

gū sū chéng wài hán shān sì  
姑 苏 城 外 寒 山 寺

yè bàn zhōng shēng dào kè chuán  
夜 半 钟 声 到 客 船

つきお からすな しもてん み  
月 落 ち 烏 啼 いて 霜 天 に 満 つ  
こうふうぎよ か しゅうみん たい  
江 枫 渔 火 愁 眠 に 対 す  
こ そ じょうがい かんざん じ  
姑 蘇 城 外 の 寒 山 寺  
やはん しょうせいかくせん いた  
夜 半 の 鐘 声 客 船 に 至 る

chūn yè sū shì  
春 夜 苏 轼

chūn xiāo yí kè zhí qiān jīn  
春 宵 一 刻 值 千 金

huā yǒu qīng xiāng yuè yǒu yīn  
花 有 清 香 月 有 阴

gē guǎn lóu tái shēng xì xì  
歌 管 楼 台 声 细 细

qiū qiān yuàn luò yè chén chén  
秋 千 院 落 夜 沉 沉

しゅんしょういつこくあたいせんきん  
春 宵 一 刻 值 千 金  
はな せいこう あ つき かげ あ  
花 に 清 香 有 り 月 に 陰 有 り  
か かんろうだい こえさいさい  
歌 管 楼 台 声 细 细  
しゅうせんいんらく よるちんちん  
鞦 韆 院 落 夜 沈 沈

xīn jià niáng wáng jiàn  
新 嫁 娘 王 建

sān rì rù chú xià  
三 日 入 厨 下

xǐ shǒu zuò gēng tāng  
洗 手 作 羹 汤

wèi ān gū shí xìng  
未 谙 姑 食 性

xiān qiǎn xiǎo gū cháng  
先 遣 小 姑 尝

さんじつちゅう か い  
三 日 厨 下 に 入 り  
て あら こうとう つく  
手 を 洗 っ て 羹 湯 を 作 る  
いま こ しょくせい そら  
未 だ 姑 の 食 性 を 諳 ん ぜ ず  
まず しょうこ な  
ま ず 小 姑 を し て 嘗 め し む



guān shān yuè chǔ guāng yì  
关 山 月 储 光 义

sòng zhū dà rù qín mèng hào rán  
送 朱 大 入 秦 孟 浩 然

yī yàn guò lián yíng  
一 雁 过 连 营

yóu rén wǔ líng qù  
游 人 五 陵 去

fán shuāng fù gǔ chéng  
繁 霜 覆 古 城

bǎo jiàn zhí qiān jīn  
宝 剑 值 千 金

hú jiǎ zài hé chù  
胡 笳 在 何 处

fēn shǒu tuō xiāng zèng  
分 手 脱 相 赠

bàn yè qǐ biān shēng  
半 夜 起 边 声

píng shēng yí piàn xīn  
平 生 一 片 心

いちがんれんえい す  
一雁連營を過ぎ

ゆうじん ごりょう き  
遊人五陵に去る

はんそう こじょう おお  
繁霜古城を覆う

ほうけんあたいせんきん  
宝剣値千金

こ か と ところ あ  
胡笳いづれの処にか在る

て わ だつ あいおく  
手を分かつとき脱して相贈る

はん や へんせい おこ  
半夜 辺声を起す

へいぜい いっぺん ところ  
平生一片の心

sòng dù shí sì zhī jiāng nán mèng hào rán  
送 杜 十 四 之 江 南 孟 浩 然

zá shī wáng wéi  
杂 诗 王 维

jīng wú xiāng jiē shuǐ wéi xiāng  
荆 吴 相 接 水 为 乡

yǐ jiàn hán méi fā  
已 见 寒 梅 发

jūn qù chūn jiāng zhèng miǎo máng  
君 去 春 江 正 淼 茫

fù wén tí niǎo shēng  
复 闻 啼 鸟 声

rì mù gū zhōu hé chù bó  
日 暮 孤 舟 何 处 泊

xīn xīn shì chūn cǎo  
心 心 视 春 草

tiān yá yí wàng duàn rén cháng  
天 涯 一 望 断 人 肠

wèi xiàng yù jiē shēng  
畏 向 玉 阶 生

けい ご あいせつ みず きょう な  
荆吴相接して水を郷と為すも

すで かんばい ひら み  
已に寒梅の発くを見

きみ さ しゅんこうまさ びょうぼう  
君去って春江正に淼茫たり

また ていちょう こえ き  
復た啼鳥の声を聞く

にちぼ こしゅういず と ところ やど  
日暮孤舟何れの処にか泊る

しんしん しゅんそう み  
心心に春草を視ては

てんがいいちぼう ひと はらわた た  
天涯一望 人の腸を断つ

ぎょうくかい むか しょう おそ  
玉階に向って生ずるを畏る

yuán rì wáng ān shí  
元 日 王 安 石

bào zhú shēng zhōng yí suì chú  
爆 竹 声 中 一 岁 除

chūn fēng sòng nuǎn rù tú sū  
春 风 送 暖 入 屠 苏

qiān mén wàn hù tóng tóng rì  
千 门 万 户 瞳 瞳 日

zǒng bǎ xīn táo huàn jiù fú  
总 把 新 桃 换 旧 符

ばくちく せいちゅういつさいつ  
爆竹の声中一歳除き

しゅんぷうだん おく と そ い  
春風暖を送って屠蘇に入る

せんもんばん こうとう ひ  
千門万户瞳瞳たる日

すべてしんとう と きゅうふ か  
総て新桃を把って旧符に換う

shān xíng dù mù  
山 行 杜 牧

yuǎn shàng hán shān shí jìng xiá  
远 上 寒 山 石 径 斜

bái yún shēng chù yǒu rén jiā  
白 云 生 处 有 人 家

tíng chē zuò ài fēng lín wǎn  
停 车 坐 爱 枫 林 晚

shuāng yè hóng yú èr yuè huā  
霜 叶 红 于 二 月 花

とお かんざん のぼ せつけいなな  
遠く寒山に上れば石径斜めなり

はくうんしょう ところじん か あ  
白雲生ずる処人家有り

くるま とど そぞろ あい ふうりん くれ  
車を停めて坐到愛す楓林の晩

そうよう にがつ はな くれなひ  
霜葉は二月の花よりも紅なり

quàn jiǔ yú wǔ líng  
劝 酒 于 武 陵

quàn jūn jīn qū zhī  
劝 君 金 屈 卮

mǎn zhuó bù xū cí  
满 酌 不 须 辞

huā fā duō fēng yǔ  
花 发 多 风 雨

rén shēng zú bié lí  
人 生 足 别 离

きみ すす きんくつ し  
君に劝む金屈卮

まんしゃくじ もち  
满酌辞するを須いず

はなひら ふう う おお  
花発いて風雨多し

じんせいべつり た  
人生別離足る

lù chái wáng wéi  
鹿 柴 王 维

kōng shān bú jiàn rén  
空 山 不 见 人

dàn wén rén yǔ xiǎng  
但 闻 人 语 响

fǎn jǐng rù shēn lín  
返 景 入 深 林

fù zhào qīng tái shàng  
复 照 青 苔 上

くうざん ひと み  
空山 人を見ず

た じんご ひび き  
但だ人語の響きを聞く

へんけいしんりん い  
返景深林に入り

また せいたい うえ て  
復た青苔の上を照らす

shānzhōngyǔyōurénduìjiǔ      lǐbái  
山 中 与 幽 人 对 酒      李 白

liǎng rén duì zhuó shān huā kāi  
两 人 对 酌 山 花 开

yì bēi yì bēi yòu yì bēi  
一 杯 一 杯 又 一 杯

wǒ zuì yù mián jūn qiě qù  
我 醉 欲 眠 君 且 去

míng zhāo yǒu yì bào qín lái  
明 朝 有 意 抱 琴 来

りょうじんたいしやく      さん か ひら  
両 人 对 酌 ずれば山花開く  
いっばい いっばい      いっばい  
一 杯 一 杯 また 一 杯  
われ よ      ねむ      ほつ      きみ      しば      き  
我 醉 うて眠 らんと欲 す君 よ且 らく去 れ  
みょうちょう い      あ      こと      だ      き  
明 朝 意 有 らば琴 を抱 いて来 たれ

zhào jìng jiàn bái fà      zhāng jiǔ líng  
照 镜 见 白 发      张 九 龄

sù xī qīng yún zhì  
宿 昔 青 云 志

cuō tuó bái fà nián  
蹉 跎 白 发 年

shuí zhī míng jìng lǐ  
谁 知 明 镜 里

xíng yǐng zì xiāng lián  
形 影 自 相 怜

しゆくせきせいうん      こころざし  
宿 昔 青 雲 の 志  
さ た      はくはつ      とし  
蹉 跎 たり 白 髪 の 年  
たれ      し      めいきょう      うち  
誰 か知 らん 明 鏡 の 裏  
けいせいおのずか      あいあわ  
形 影 自 ら相 隣 れまんとは

dōng lán lí huā      sū dōng pō  
东 栏 梨 花      苏 东 坡

lí huā dàn bái liǔ shēn qīng  
梨 花 淡 白 柳 深 青

liǔ xù fēi shí huā mǎn chéng  
柳 絮 飞 时 花 满 城

chóu chàng dōng lán yì zhū xuě  
惆 怅 东 栏 一 株 雪

rén shēng kàn dé jǐ qīng míng  
人 生 看 得 几 清 明

り か      たんぱくやなぎ      しんせい  
梨 花 は淡 白 柳 は深 青  
りゅうじょと      はなしろ      み つ  
柳 絮 飛 ぶ とき 花 城 に 満 つ  
ちゅうちょう      とうらんいつしゅ      ゆき  
惆 怅 す 東 欄 一 株 の 雪  
じんせい み う      いくせいめい  
人 生 看 得 る は 幾 清 明 ぞ

jīng shī dé jiā shū      yuán kǎi  
京 师 得 家 书      袁 凯

jiāng shuǐ sān qiān lǐ  
江 水 三 千 里

jiā shū shí wǔ háng  
家 书 十 五 行

háng háng wú bié yǔ  
行 行 无 别 语

zhǐ dào zǎo guī xiāng  
只 道 早 归 乡

こうすいさんせん り  
江 水 三 千 里  
かしょじゅうごぎょう  
家 書 十 五 行  
ぎょうぎょうべつご な  
行 行 別 語 無 く  
ただい      はや      きょう      かえ  
只 道 う 早 く 郷 に 帰 れ と

nǐ sòng bié wáng yáo xiāng  
拟 送 别 王 瑶 湘

gū zhōu mù guī qù  
孤 舟 暮 归 去

bié lù jiāng nán shù  
别 路 江 南 树

yān wài yǒu zhōng shēng  
烟 外 有 钟 声

gù rén zài hé chù  
故 人 在 何 处

こしゅうく かえ さ  
孤 舟 暮 れ に 帰 り 去 る  
べつろ こうなん き  
别 路 江 南 の 樹  
えんが いしょうせい あ  
煙 外 鐘 声 有 り  
こじんいず こ あ  
故 人 何 処 に 在 る

dù jiāng wén mò  
渡 江 文 墨

qīng shān rú gù rén  
青 山 如 故 人

jiāng shuǐ sì měi jiǔ  
江 水 似 美 酒

jīn rì chóng xiāng féng  
今 日 重 相 逢

bǎ jiǔ duì liáng yǒu  
把 酒 对 良 友

せいざん こじん ごと  
青 山 故 人 の 如 く  
こうすい びしゅ に  
江 水 美 酒 に 似 た り  
きょうかさ あいあ  
今 日 重 ね て 相 逢 う  
さけ と りょうゆう たい  
酒 を 把 っ て 良 友 に 対 す

péizúshūxíngbùshì láng yè jí zhōngshū jiǎshè rén  
陪 族 叔 刑 部 侍 郎 晔 及 中 书 贾 舍 人  
zhì yóu dòng tíng lǐ bái  
至 游 洞 庭 李 白

dòng tíng xī wàng chǔ jiāng fēn  
洞 庭 西 望 楚 江 分

shuǐ jìn nán tiān bú jiàn yún  
水 尽 南 天 不 见 云

rì luò cháng shā qiū sè yuǎn  
日 落 长 沙 秋 色 远

bù zhī hé chù diào xiāng jūn  
不 知 何 处 吊 湘 君

どうていにし のぞ そ こう わ  
洞 庭 西 に 望 め ば 楚 江 分 か る  
みずつ なんてん くも み  
水 尽 きて 南 天 に 雲 を 見 ず  
ひ お ちょう さ しゅうしょくと お  
日 落 ち て 長 沙 秋 色 遠 し  
し いず ところ しょうくん とむろ  
知 ら ず 何 れ の 処 に か 湘 君 を 吊 う

qiū yuè chéng hào  
秋 月 程 颢

qīng xī liú guò bì shān tóu  
清 溪 流 过 碧 山 头

kōng shuǐ chéng xiān yī sè qiū  
空 水 澄 鲜 一 色 秋

gé duàn hóng chén sān shí lǐ  
隔 断 红 尘 三 十 里

bái yún huáng yè gòng yōu yōu  
白 云 黄 叶 共 悠 悠

せいけいなが す へきざん ほとり  
清 溪 流 れ 過 ぐ 碧 山 の 頭  
くうすい ちようせん いっしきあき  
空 水 澄 鲜 一 色 秋 な り  
こうじん かくだん さんじゅうり  
紅 塵 を 隔 断 す 三 十 里  
はくうん こうよう ゆうゆう  
白 雲 黄 葉 と と も に 悠 々

qiūyè jìqīuèrshí èryuánwài  
秋夜寄邱二十二员外

wéiyīngwù  
韦应物

yǒng shǐ  
咏史

gāo shì  
高适

huái jūn shǔ qiū yè  
怀君属秋夜

shàng yǒu tí páo zèng  
尚有缟袍赠

sàn bù yǒng liáng tiān  
散步咏凉天

yīng lián fàn shū hán  
应怜范叔寒

shān kōng sōng zǐ luò  
山空松子落

bù zhī tiān xià shì  
不知天下士

yōu rén yīng wèi mián  
幽人应未眠

yóu zuò bù yī kàn  
犹作布衣看

きみ おも う しゅう や ぞく  
君を思うは秋夜に属し

なお ほ う ぞう あ  
尚お てい袍の贈有り

さんぽ りょうてん せい  
散歩して凉天に詠ず

まさ に はんしゆく かん あわ  
まさに范叔の寒を憐れむなるべし

やまむな しゅう し お  
山空しうして松子落つ

てんか し し  
天下の士たるを知らず

ゆうじんまさ いま ねむ  
幽人応に未だ眠らざるべし

な ふ い かん  
猶お布衣の看をなす

bān jié yú wáng wéi  
班婕妤 王维

xún yīn zhě bú yù jiǎ dǎo  
寻隐者不遇 贾岛

guài lái zhuāng gé bì  
怪来妆阁闭

sōng xià wèn tóng zǐ  
松下问童子

cháo xià bù xiāng yíng  
朝下不相迎

yán shī cǎi yào qù  
言师采药去

zǒng xiàng chūn yuán lǐ  
总向春园里

zhǐ zài cǐ shān zhōng  
只在此山中

huā jiān xiào yǔ shēng  
花间笑语声

yún shēn bù zhī chù  
云深不知处

あや きた しょうかく と  
怪しみ来る 妆閣閉じ

しょうかどうじ と  
松下童子に問えば

ちょう くだ あいむか  
朝より下るも相迎えざるを

い くすり と き  
言う師は薬を採りに去ると

す しゅんえん うち むか  
総べて春園の裏に向う

ただ こ さんちゅう  
只此の山中にあらんも

か かんしょう ご こえ  
花間笑语の声

くもふか ところ し  
雲深くして処を知らず

shǔ dào hòu qī zhāng yuè  
蜀道后期 张说

kè xīn zhēng rì yuè  
客心 争日月

lái wǎng yù qī chéng  
来往预期程

qiū fēng bù xiāng dài  
秋风不相待

xiān zhì luò yáng chéng  
先至洛阳城

かくしん にちげつ  
客心 日月と争い  
らいおう あらかじ てい き  
来往 預め 程を期す  
しゅうふう あい ま  
秋风 相 待たず  
ま いた らくようじょう  
先ず至る 洛陽城

nán lóu wàng lú zhuàn  
南楼望 庐 僦

qù guó sān bā yuǎn  
去国三巴远

dēng lóu wàn lǐ chūn  
登楼万里春

shāng xīn jiāng shàng kè  
伤心江上客

bú shì gù xiāng rén  
不是故乡人

くに き てさん ぼとお  
国を去って三巴遠く  
ろう のぼ ぼんりはる  
楼に登れば万里春なり  
こころ いた こうじょう きゃく  
心を傷ましむ江上の客  
これ こきょう ひと  
是れ故郷の人ならず

shào nián xíng cuī guó fǔ  
少年行 崔国辅

yí què shān hú biān  
遗却珊瑚鞭

bái mǎ jiāo bù xíng  
白马骄不行

zhāng tái zhé yáng liǔ  
章台折杨柳

chūn rì lù páng qíng  
春日路旁情

い きゃく さん ご むち  
遺却す珊瑚の鞭  
はく ば おご い  
白馬驕りて行かず  
しょうだいやうりゅう お  
章台楊柳を折る  
しゅんじつろ ぼう じょう  
春日路傍の情

bié dòng dà gāo shì  
别董大 高适

shí lǐ huáng yún bái rì xūn  
十里黄云白日曛

běi fēng chuī yàn xuě fēn fēn  
北风吹雁雪纷纷

mò chóu qián lù wú zhī jǐ  
莫愁前路无知己

tiān xià shéi rén bù shí jūn  
天下谁人不识君

じゅうり こううんはくじつくん  
十里の黄雲白日曛じ  
ほくふうかり ふ ゆきふんぶん  
北風雁を吹いて雪紛々たり  
うれう なか ぜんろ ち き な  
愁うる莫れ 前路知己無きを  
てん くだれひと きみ し  
天下誰人が君を識らざらん

yèshàngshòuxiángchéngwéndí lǐyì  
夜上受降城闻笛 李益

huí lè fēng qián shā sì xuě  
回乐峰前沙似雪

shòu xiáng chéng wài yuè rú shuāng  
受降城外月如霜

bù zhī hé chù chuī lú guǎn  
不知何处吹芦管

yí yè zhēng rén jìn wàng xiāng  
一夜征人尽望乡

かいらくほうぜん すな ゆき に  
回楽峰前 沙 雪に似たり  
じゅこう じょうがい つき しも ごと  
受降 城外 月 霜の如し  
し いず ところ ろかん ふ  
知らず何れの 処 か 蘆管を吹く  
いち や せいじんことごとくきょう のぞ  
一夜 征人尽く 郷を望む

sài shàng wén chuī dí gāo shì  
塞上闻吹笛 高适

xuě jìng hú tiān mù mǎ huán  
雪净胡天牧马还

yuè míng qiāng dí xū lóu jiān  
月明羌笛戍楼间

jiè wèn méi huā hé chù luò  
借问梅花何处落

fēng chuī yí yè mǎn guān shān  
风吹一夜满关山

ゆききよ こてん うま ぼく かえ  
雪 浄く 胡天 馬を牧して 還れば  
つき あき きょうてき じゅうろ かん  
月は明らかに 羌笛 戍楼の間  
しゃもん ばいか お  
借問す 梅花 いくよりか 落つる  
かぜ ふ いち や かんざん み  
風吹いて 一夜 関山に 満つ

yè yǔ jì běi lǐ shāng yīn  
夜雨寄北 李商隐

jūn wèn guī qī wèi yǒu qī  
君问归期未有期

bā shān yè yǔ zhǎng qiū chí  
巴山夜雨涨秋池

hé dāng gòng jiǎn xī chuāng zhú  
何当共剪西窗烛

què huà bā shān yè yǔ shí  
却话巴山夜雨时

きみ きき と いま き あ  
君は帰期を問うも未だ期有らず  
はざん やう しゅうち みなぎ  
巴山の夜雨 秋池に 漲る  
まさ とも せいそう しょく き  
いつか 当に 共に 西窓の 燭を 剪り  
かえ はざん やう とき はな  
却って 巴山 夜雨の 時を 話す べき

hán shí hán hóng  
寒食 韩翃

chūn chéng wú chù bù fēi huā  
春城无处不飞花

hán shí dōng fēng yù liǔ xiá  
寒食东风御柳斜

rì mù hàn gōng chuán là zhú  
日暮汉宫传蜡烛

qīng yān sàn rù wǔ hóu jiā  
轻烟散入五侯家

しゅんじょう ところ ひ か なし  
春城 処として 飛花 ならざるは 無し  
かんしょくとうふう ぎよりゆうなな  
寒食 東風 御柳 斜めなり  
ひく かんきゅう ろうそく つた  
日暮れて 漢宮より 蠟燭を 伝え  
けいえんさん ごこう いえ い  
軽烟 散じて 五侯の 家に入る

## 漢詩かるた読み札原稿

### 参考資料

- 中国古典選 唐詩選 監修 吉川幸次郎  
(朝日新聞社)
- 東洋文庫 蘅塘退士編/目加田誠 訳注  
唐詩三百首(平凡社)
- 漢詩歳時記 渡部英喜著 (新潮選書)
- 新修 墨場必携 山本正一編 (法政大学出版局)